

# 高崎看護学校における 受験生確保のための取り組み

小川 哲史<sup>†</sup> 関 則子 佐藤 陽子 水江麻紀子第76回国立病院総合医学会  
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 77 No. 6 (389–393) 2023

## 要旨

国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校（当校）は高崎駅から1 kmに位置しており、定員は80名、うち指定校による推薦枠は35名である。受験生確保のための取り組みとしては、推薦指定校をはじめ県内外の高校の進路指導教諭への説明会、高校および業者主催の受験生を対象とした説明会、さらにオープンスクールの開催などである。受験生および高校教諭へのアンケート結果の集計による当校志望理由は、①交通の利便性などの好立地、②大学等と比べ安価な授業料、③実習や講義が実践的で充実、④国家試験の高い合格率、⑤NHO病院への就職など卒後が安定、⑥オープンスクールでの好印象、⑦卒業生による推薦、などであった。定員を80名に増員後6年間の平均応募者数は推薦が34名、一般が111名で、合格者のうち入学辞退者は平均22名で80名の定員をほぼ充足した。

近年、少子化による受験生の減少と大学志向、また看護大学の新設等によりNHO附属看護学校への入学者は全国的に減少傾向にある。現在の受験生世代はZ世代と呼称され、デジタルネイティブで生まれたときからSocial Networking Service (SNS) の社会で生活しており、その特徴として、人生のコストパフォーマンス至上主義的な考え方や心理的安全性を求めること、などがいわれている。このような若者にアピールするためには、4年制大学や他の看護学校と比べたNHO附属看護学校の利点を明確に積極的に示すことが必要である。具体的には、地域の第一線の医療現場で充実した臨床実習を通して実践的で最新の知識や技術を修得できることやNHO病院への就職など卒後の進路が安定していることなどが考えられる。その広報手段としては、学校のホームページやSNS、またオリジナル動画などにより、学生の目線で日常的に接しているツールを用いての説明が肝要と思われる。さらに入学後に休学や退学者が増加傾向にあるため、学生のメンタルケアにも十分に配慮し心理的安全性を確保する努力が、今後はさらに重要になると考える。

キーワード 看護学校, 受験生確保, Z世代

高崎総合医療センター附属高崎看護学校 <sup>†</sup> 医師

著者連絡先：小川 哲史 国立病院機構高崎総合医療センター 院長 附属高崎看護学校長

〒370-0829 群馬県高崎市高松町36番地

e-mail:ogawa.tetsushi.gb@mail.hosp.go.jp

(2023年3月9日受付 2023年8月4日受理)

Effort to Secure Applicants at NHO Takasaki General Medical Center School of Nursing

Tetsushi Ogawa, Noriko Seki, Yoko Sato and Makiko Mizue

NHO Takasaki General Medical Center School of Nursing

(Received Mar. 9, 2023, Accepted Aug. 4, 2023)

Key words : school of nursing, effort to secure applicants, generation z